



## がん薬物療法専門医のコラム 第8回

### 化学療法 と がん薬物療法

化学療法 とは何でしょうか？

化学というと、中学、高校、大学等で習った 理科の単元・領域のひとつを思い浮かべる人が多いのではないのでしょうか。

理科には他に、物理、生物、地学 というものがあつたと思います。

生物は、生物化学兵器なんて物騒な言葉がありますが、こと治療に関してはあまり聞いたことがないと思います。地学療法というものもありません。

一方、物理療法というものは存在します。

では、化学療法と物理療法の違いは为什么呢？

まず、対になる物理療法から説明します。

物理療法というのは、物理的な力＝ 牽引（引っ張る力）だとか、熱だとか、光だとか、電気だとかを使った治療法で、整骨院やリハビリの場面で、皆さんも経験されたことがあると思います。

化学療法というのは、化学物質を使った治療法です。化学物質は抗がん剤に限りません。抗生物質という細菌を殺す薬剤は化学物質ですから、抗生物質を使って肺炎を治すとするとこれは化学療法をしているということになります。

がん治療においては、古くから①手術、②化学療法、③放射線療法が3つの柱といわれてきました。第4の治療として免疫療法が脚光を浴びていますが、現時点で薬物を使った治療としては、化学療法がメインです（免疫療法も化学物質である薬剤を使うので広い意味で化学療法の仲間に入れてもいいかもしれません）。

化学療法というと、必ずしもがん治療に限らないということから、薬剤を使ったがん治療を、『がん薬物療法』と区別して語られることも増えてきました。

ですので、私のようにがんの薬物療法（それはすなわち化学療法であつたり、免疫療法であつたりするわけですが）を行っている専門医の資格としては、化学療法専門医ではなくて

『がん薬物療法専門医』という名称になっています（ちなみに抗生物質に代表される抗菌薬の取扱にたけた医師を認定する制度があり、そこでの名称は、『抗菌化学療法認知医』とされています）。

では、また。

